

平成30年度の学校評価
ア 自己評価結果

重点目標		重点目標	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体でカリキュラムマネジメントを推進する。 ・社会貢献のために未知なるモノを創造する力を身につけ、良識ある社会人としてのモラルを実践できる総合力を育成する。 ・課題発見力と質の高い探究心を育成する。 ・高度な知識の獲得、その活用方法の習得、活用する心の滋養、活用する行動力を育成する。 ・安全衛生委員会など既存の組織を活用しながら、業務改善に向けた取組を行い、多忙化の解消に努める。 	
教務	業務の一層の効率化と改善を目指すとともに、次期学習指導要領に向けた周知に努め、授業改善に向けた取組を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの担当業務について、現状における問題点を整理し、情報共有に努め、改善策を部会で検討していく。 ・教科主任会や教科会を通じ、特に次期学習指導要領における「主体的な学び」の実現に向けた授業作りへの取組を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答案管理の徹底にむけた答案表紙の様式改善など、具体的な改善案を実行に移すことができた。 ・教科会と連携協力し、各教科の新学習指導要領における要点を共有し、「主体的な学び」に向けた授業実践に関する協議・報告を行ない、意識を高めることができた。
総務	給付型奨学金が多種多様化し、募集が本格化する状況に対し、学校全体で協力して手続きの指導ができる体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会や他分掌との連携を密にし、必要な情報を適切に生徒に伝えるようにする。また、学年会の中の生徒情報等を担当で共有し、奨学金に関する指導に活かされるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給付型の奨学金で募集範囲が拡大されたものを含めて、該当学年と連絡を密にし、希望生徒の指導を行った。募集学年が増えるもの等、適切に対応できるようにしていきたい。
生徒指導	「礼節を重んぜよ」を基盤とした行動の実践と、明和生としての帰属意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の遅刻指導や身だしなみ指導を通して、節度ある行動（挨拶、身だしなみ、言葉遣い）や時間管理などの社会的資質を向上できるようにする。 ・情報モラルに関して、情報化の問題点を理解し、良識ある行動がとれるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の校門立ち番指導において、予鈴時には校内にいるように声掛けし、朝の時間管理を意識させたが、遅刻ゼロの日が少ないのが現状であった。欠席、遅刻をせずに学校生活を送れる基本的な生活習慣の確立が必要である。また、登下校時のマナーに関して、クラス掲示等を通じて意識させたい。 ・情報モラルに関しては、日頃から学校全体で重要性を伝えていく必要がある。愛知県東警察署や各省庁が作成している資料を利用し、高校生が注意すべき行動が具体的にわかるように今後も情報提供していきたい。
進路	職員間で進路指導に対する共通認識を持ち、学校全体で組織的に継続性のある進路指導を展開し、生徒一人一人のキャリアデザインに基づいた進路実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・実力考査のデータの有効活用を図るため、実力考査のよりよいあり方を検討し改善案を提示する。 ・キャリア教育の充実に向けて、各種ガイダンスを改善し、1、2年生における進路意識の高揚を図る。 ・各学年で行われる進路情報交換会の内容の充実を図り、最後まで第一志望を大切にす進路指導を展開する。 ・高大接続改革の対応策として、ポートフォリオ作成などを通して調査書作成の準備を具体化していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施状況・活用状況を調査し次年度への提案をまとめることができた。実力考査がより有効に機能するよう、調査と検討を続ける。 ・調査書作成について、教務、図書情報、生徒会学年会と協議する。 ・各種ガイダンスにキャリア教育の視点を取り入れた。よりガイダンスの効果が高まるよう改善を図る。 ・各学年での情報交換会について学年の意見をいただいた。更に学年との連携強化を図りつつ実施する。 ・高大接続改革について情報収集に努め、学年と連携してポートフォリオの作成を進めた。来年度はより使いやすいものとなるよう改善を図る。 ・高大接続改革を見据えて、校内実施模試、校外受検模試の配置について検討し提案する。
保健相談	快適な学校環境を実現するとともに、生徒の心身の健康増進を手助けする。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の清掃や点検活動を通し、自ら環境美化に務める姿勢を育成する。 ・学年との情報交換を通して、早期に連携して生徒対応ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒安全委員会、生徒保健委員会を定期的に開き、教室の安全、清掃点検を実施できた。今後はより一層、清掃活動に対して熱心に取り組ませていきたい。 ・部会とともに週1回の相談会議を通して、生徒情報を共有できた。緊急を要する事例に対しての情報共有を高めていきたい。
生徒会	自主自立の精神に基づき、全校生徒が主体的に活動できるような企画、運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事の持つ意味についてあらためて考え、目的を意識して企画、運営する。 ・効率的な行事運営をし、種別委員会の負担を減らす。 ・東北被災地関連の企画を継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的方策についてはいづれも意識させて実施したが、「種別委員会の負担」については実現が難しかった。今後も継続して考えさせたい。 ・「部活動ガイドライン」に則した部活動要綱の改訂をした。
図書情報	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒および教員の図書館利用を活性化させる。 ・校務支援システム運用のサポートと個人情報管理の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒図書部の活動が主体的に行われるようにし、特に図書館報の内容を充実させる。 ・時宜にかなったテーマ本の展示を行う。 ・校務支援システム運用のため教務部・進路部と連携を図る。 ・個人情報の入ったファイルについてパスワード設定を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・30年度(12月まで)の貸出冊数は1491冊で、前年の1186冊より増加した。また授業等を図書館で23時間行った。各教科と連絡を密にし、図書館の利用をさらに活性化させたい。 ・校務支援システムについて、要録・調査書作成など支障なく運用できた。 ・情報の分類・点検にあわせてパスワードの設定を確認してもらった。
研究開発	課題研究に対する先進的な指導法と評価法を確立し、学校全体として組織的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に評価場面を設け、ルーブリック評価を実施し、課題研究に対する指導法の改善を加える。また、SSH行事だけでなく、教科・科目においても問題意識を持たせる場面を増やし、探究的な学びの場を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題探究」を中心とする課題研究の流れがほぼ確立したことで、指導体制が完成しつつある。その一方で、各教科・科目で芽生えてきた「探究心」を「課題探究」に有機的に結びつけ生徒の課題研究に対するモチベーションをどのように高めていくかが課題である。
音楽	・美しい音楽は美しい環境か	・清掃活動時の分担を細かく振り分けて責任	・清掃活動については、分担が細分化され明

	ら生まれることを浸透させる。 ・主体性をもって学ぶ姿勢を身につけさせる。	を持たせる。 ・楽譜や楽書、および楽器について、整理整頓に努め、共用の備品の取り扱いについてのルールを徹底させる。 ・演奏技術の修練だけではなく、豊かな感性と幅広い教養が身につくように様々な教科との連携を図り学習を深めていけるようにする。	確になったことで、以前よりは責任を持って取り組むようになったが、まだ自発的に動いてない生徒も多いので、引き続き自ら考え行動できるように指導していきたい。 ・共用の設備・楽器・楽譜の取り扱いルールが、まだ徹底出来ていないので今後の課題にしたい。 ・専攻実技の技術を磨くために、引き続き豊かな感性、幅広い教養、知識を関連づけて学ばせたい。 ・専攻実技の技術を磨くために、引き続き豊かな感性、幅広い教養、知識を関連づけて学ばせたい。
1年	基本的な生活習慣を整え、自らの学習法を確立し、何事にも積極的に取り組むことで主体的に社会に貢献できる素養を育む。	時間や期限を守る、授業を大切に学習に臨む、学校行事や清掃などに積極的に取り組むといった、高校生として「あたりまえのこと」をあたりまえにやる姿勢を身につけさせる。	生徒はおおむね基本的な生活習慣を整え、学習だけでなく学校行事や清掃などにも積極的に取り組むことができた。引き続き指導を継続し、中核学年としてふさわしい生徒に育てることが必要である。
2年	・中核学年として、部活動・学校行事に積極的に取り組ませる。 ・自己の将来について主体的に考えさせ、進路実現に向けて計画的に学習に取り組ませる。	・学習活動と特別活動の切り換えを意識させ、時間を有効に使えるよう指導する。 ・行事や修学旅行を通して、公共心や協調性を身につけられるよう指導する。 ・文理選択に向けて、自己の進路について更に高い意識を持てるよう指導する。	・生徒は学習活動と特別活動を両立すべく、時間の使い方を工夫しながら努力している。 ・部活動や学校行事を通して、自ら考えて行動できる生徒が増えた。 ・文理選択を経て進路に対する意識が高まった生徒がいる一方で、不振科目を多く抱える生徒や学校に適応できていない生徒もいるので、情報のやりとりを密にし、適切に援助していきたい。
3年	生徒の進路実現を図るとともに良識ある社会人を育成する。	生徒の進路希望・学習状況の情報を学年会で共有し、本校の生徒の特性を十分考慮した適切な進路指導と学習指導を行う。周囲に配慮し、モラルある行動が実践できるよう指導する。	生徒は学校行事に熱心に取り組む、成果を上げた。学校祭後は学習に切り替えて、各自の進路を見据えて取り組み、教員もそれをサポートすることができた。生徒の進路実現に向けて、進路指導部と連携して取り組むことができた。今後もよりよい方策を模索していく必要がある。
いじめ防止基本方針に基づく取組	いじめの未然防止、早期発見を図る。	生徒の不安や悩みを把握するため、年2回の「いじめ・迷惑行為調査」、個人面談、健康観察等を実施する。	年2回の「いじめ・迷惑行為調査」を実施した。個人面談、健康観察等とあわせて、未然防止や早期発見に生かすことができた。今後も調査結果のみを過信せず、日常の観察や面談を重視し、情報共有を図りたい。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止の実施状況	在校時間が月80時間を超過している教員の割合を5%以下にする。	・職員室の開錠時間及び最終施錠時間を適切に設定し、合理的な働き方の工夫を推進する。 ・安全衛生委員会の定めた定時退校日を周知徹底し実施する。 ・部活動総合指導員と関係顧問が連携し、土休日の職員の負担を軽減する。	対象職員65名の5% (3.25名) 以下の目標を達成することはできなかった。ただし、年度途中に県が例示した7:00~20:00の職員室開錠時間を取り入れたこと、3つの運動部での部活動総合指導員の活用の工夫、部活動指導ガイドラインに添った部活動要綱の改訂、業務のワークバランスへの日々の働きかけなどにより、次年度から始まる本格的な働き方改革実施のための気運を醸成することができた。
総合評価		・MC委員会が中心となり、教務部と研究開発部が連携をとりながら、1年MC・2年課題探究、3年探究科目の構造化を図るべく検討を開始した。 ・各主任が業務の効率化や平準化を心がけ、関係職員の多忙化解消に努めた。また、部活動総合指導員の活用や部活動要綱の見直しによって、部活動についても改善を図った。	

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	・次期学習指導要領を視野に入れながら、SSH事業を中心に据えた学校全体でのカリキュラムマネジメントを推進し、2年目となる教育課程を円滑に効果的に実施するために、職員間の連携や工夫ができたか。 ・学年や分掌や部活動等における業務改善の取組によって、多忙化解消を図ることができたか。
自己評価結果について	・基本的にしっかりやれている。 ・激動の時代なので、生徒には世界に目に向けてほしい。英語による発表が普通になったことは喜ばしい。
今後の改善方策について	・SSHを軸として、どう応用していくか考えてほしい。 ・勉強、運動以外にも、高い教養や芸術性を身に付けてほしい。図書館がもっと利用されるといい。
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	・世界的な視野をもつ生徒を育ててほしい。外国の大学に進むにはプラスアルファが必要。国際社会で何が求められているかを伝えてほしい。 ・他の業種でも働き方改革の推進に苦勞している。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	・構成……学校評議員4名及びPTA会長・副会長 ・評価時期……3月1日

(5) 経理管理上の問題点等

- ア 第Ⅱ期SSH事業を中心に据えた学校全体でのカリキュラムマネジメント
- イ 生徒の変容をとらえる評価法（変容ルーブリック）の開発
- ウ 新学習指導要領を視野に入れた授業改善
- エ 大学入試改革への対応策の検討
- オ 教職員の健康維持に配慮した体制の構築